



8月19日
市防災訓練での栗市長

平成30年9月6日

4日夕方に石川県に最接近した台風21号は、非常に強い大型のものでした。

県内では63万人の避難勧告が出されましたが、本市では避難勧告を出すまでには至りませんでした。前日から庁内に「台風21号対策会議」を設置し、水防班の体制強化、小中学校の下校時間の繰上げ、公共施設の開館時間の短縮などの対策や、ホームページを通じての情報発信にあたりました。被害状況については調査中ではありますが、今回の対応にも十分検証して、今後の災害時の備えをより万全なものにしていきたいと考えています。

8月19日に、市総合防災訓練が行われました。今年の防災訓練は、5か年計画の最終年ということで、ご近所を含め各町内会で安否確認し、救える命を救うことを大原則に行いました。5年前と比べるとかなり前進していると感じていますが、細かな課題は訓練をするたびに見つかります。これも訓練の成果でもあり、出てくる課題は地域の皆さんのご意見やお考えをいただきながら、対応していきたいと思えます。

来年度からの訓練はどうなるのか、現時点では詳しいことは決まっていますが、これまで訓練を通していただいた皆さんからご意見をもとに検討し、来年度以降に望みたいと考えております。

6月に大阪府北部で起こった地震により、通学路になっていた小学校の施設のブロック塀が倒れ、お子さんが亡くなりました。全国の学校施設のブロック塀の中には、法令に合致していないものや、過去の基準に合わせてあったものもあります。市内の対象となるブロック塀を点検や調査したところ、直ちに撤去を必要とするものではありませんでしたが、一部基準に満たないものや補強が必要なものについて撤去や補修を進めるため9月議会で補正予算を提出いたしました。

また、年明けからの大雪による「30豪雪を検証する会」では町内会の代表の方や関係機関の皆さんにご意見の取りまとめをしていただいております。市が町内会に対して行う小型除雪機購入に対する補助の割合や限度額を引き上げさせていただくことや、それぞれの小中学校への除雪機の購入費の補正予算も盛り込んでおります。さらには生活道路の除雪に入る出勤基準の見直しなど、来る冬に備えて30豪雪から得た教訓を活かしてまいりたいと考えております。

今月16日には、「第8回北国街道野々市の市」が開催されます。中央地区の整備や、にぎわい創出プロジェクトも動きがあるなかで、地域にお住まいの皆さんが自ら企画して回を重ねています。野々市のにぎわいを創出する、それも市民の皆さんが中心になっての手作りで、市民協働のまちづくりを象徴する事業です。今年はどうようになるか、とても楽しみにしています。

この夏は本当に暑かったです。昔は30度を超えると、暑いなあと感じていましたが、今年の夏は各地で40度近くになっていました。私自身、暑いのは嫌いではないのですが、さすがにこの酷暑には体の不調までとはいかななくても、いささか疲れを感じます。

これから秋を迎え、気温が少しずつ下がると過ごしやすくなりますが、酷暑に耐えた緊張感が解け、疲れやだるさも出てきます。「秋バテ」とも言うようですが、市内でこれから始まる秋のイベントや、地域の秋祭り、そして、そこに集われる市民の皆さんから「元気」をいただけるのではないかと考えております。